

免疫抑制療法や化学療法を受ける方へ

B型肝炎ウイルスの 再活性化に ご注意ください



監修 坪内 博仁 先生
鹿児島市立病院長

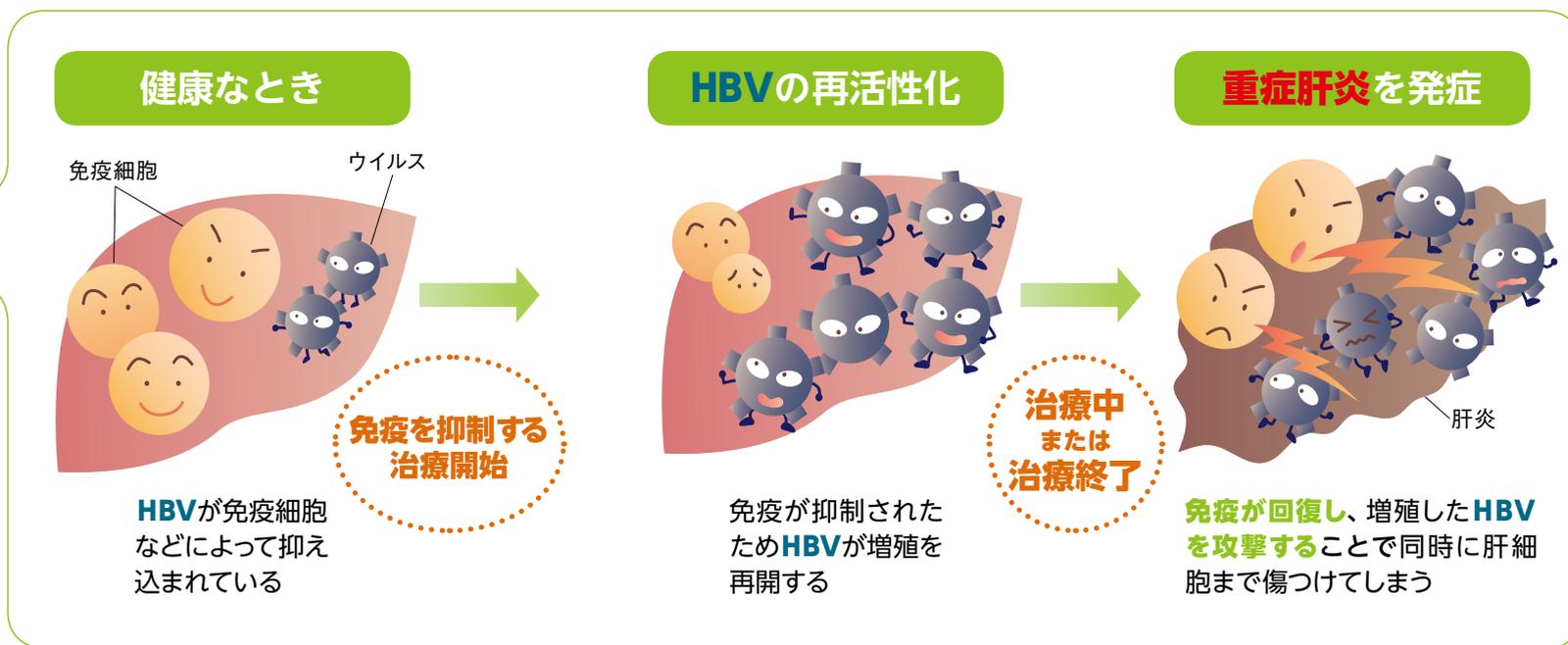
免疫抑制療法や化学療法を受けると B型肝炎ウイルス(HBV)が再活性化し、

重症肝炎を起こすおそれがあります。

医学・医療の進歩に伴い、新しい免疫抑制剤、生物製剤、抗がん剤が使われるようになりました。最近、これらの治療により免疫が抑制されると、血液中や肝臓に残っているB型肝炎ウイルス(HBV)が増殖(HBVの再活性化といいます)し、肝炎が起こることが知られてきました。HBV再活性化は、以前よりB型慢性肝炎患者さんなどのHBV

キャリアの副腎皮質ホルモン治療時に起こることがよく知られていましたが、HBV既往感染者*でも起こることが大きな問題になっています。HBV再活性化による肝炎は、通常の急性肝炎に比べて重症化する頻度や死亡率が高いことが分かっています。したがって、免疫抑制・化学療法を受ける場合には適切な対応が必要です。

B型肝炎ウイルス(HBV)が再活性化するしくみ



*HBV既往感染者とは:HBVに過去に感染し、治った状態の者で、検査ではHBs抗原陰性で、HBe抗体およびHBs抗体のいずれかまたは両方が陽性を示します。ほとんどの既往感染者が、自分が既往感染者であることを知りません。

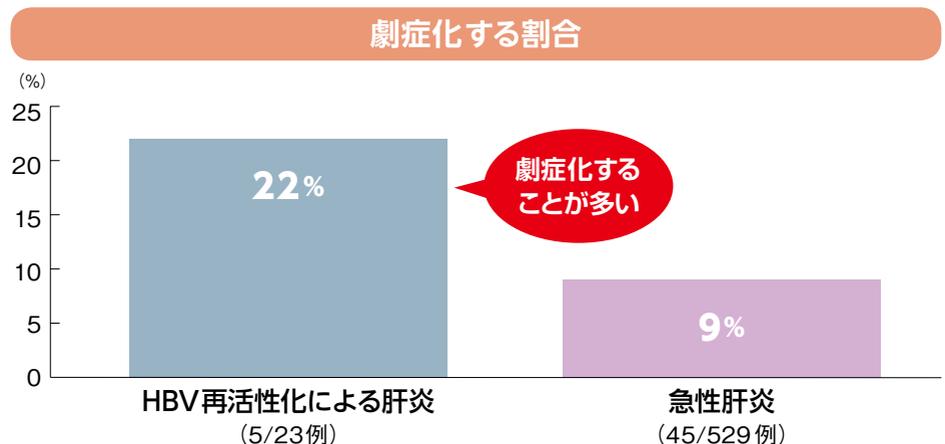
これらの治療を受ける前に、必ず B型肝炎ウイルスの感染の有無を確認する必要があります。

HBV再活性化が起こる可能性のある治療には、「臓器移植」、「骨髄移植・造血幹細胞移植」、「免疫抑制薬による治療」、「抗がん剤による化学療法」などがあります。特に、悪性リンパ腫に対するリツキシマブと副腎皮質ホルモンの併用療法などは、HBVキャリアだけでなくHBV既往感染者*においても、高頻度にHBV再活性化が起こり、重症化や劇症化するリスクの高い治療法です。

最近、患者さんの多い関節リウマチや炎症性腸疾患(クローン病や潰瘍性大腸炎)に対する免疫抑制療法時にも、HBVの再活性化が報告されるようになり、注意が必要になってきました。

しかし、大切なことは、免疫抑制・化学療法をHBVキャリアや既往感染者は受けられないということではなく、適切に検査をして対応すれば、より安全にこれらの免疫抑制・化学療法を受けられるということです。

HBV再活性化によるB型肝炎の危険性 (既往感染者の場合)



Umemura T, et al., Clin Infect Dis 2008 ; 47 (5) : e52-56

*HBV既往感染者とは:HBVに過去に感染し、治った状態の者で、検査ではHBs抗原陰性で、Hbc抗体およびHBs抗体のいずれかまたは両方が陽性を示します。ほとんどの既往感染者が、自分が既往感染者であることを知りません。

注意が必要な治療

臓器移植、
骨髄移植・造血幹細胞移植



免疫抑制薬による治療
抗がん剤による化学療法



関節リウマチに対する
免疫抑制療法

クローン病や潰瘍性大腸炎
に対する免疫抑制治療法**



**抗TNF療法など

HBV再活性化を防ぐための検査と対処法

治療開始前に適切に対処すれば、より安全に治療を受けることができます。

HBs抗原陽性の場合

抗ウイルス薬
を使用



化学療法



治療終了

HBs抗原陰性の場合

HBc抗体、
HBs抗体
検査*を実施



どちらか、
あるいは
両方陽性

HBV-DNA
定量検査**
を実施

HBV-DNA 検出

HBV-DNA
検出せず

月1回
HBV-DNA
定量**、
AST/ALT
検査を実施

両方陰性

通常の
化学療法

抗ウイルス薬
を使用



化学療法



治療終了

化学療法



抗ウイルス薬
を使用



治療終了

HBV-DNA量が
上昇したら

HBV再活性化の防止対策は、HBVキャリアとHBV既往感染者で異なります。HBs抗原陽性(HBVキャリア)であれば、肝臓専門医に相談して免疫抑制療法や化学療法開始前に、できるだけ早く抗ウイルス薬の予防投与を行います。

HBs抗原が陰性の場合には、過去に感染歴があるかどうか確認するため、HBc抗体、HBs抗体の検査を行います。

その結果、感染歴が認められれば、免疫抑制療法、化学療法の実施中と治療終了後1年間は、HBV-DNA量を定期的に測定し、HBV-DNA量の上昇が認められた場合には直ちに抗ウイルス薬の投与を開始します。これらの検査と抗ウイルス薬の予防投与により、免疫抑制療法、化学療法に伴うHBVの再活性化を予防することができます。

HBs抗原: HBV感染を最初に調べるウイルスマーカー
陽性: 現在感染している
HBs抗体: HBs抗原に対する抗体(HBVの感染を防御する働き)
陽性: 過去に感染したことがある

HBc抗体: HBc抗原に対する抗体
陽性: 現在感染しているか、
過去に感染したことがある
HBV-DNA: B型肝炎ウイルスの遺伝子。
ウイルスの存在および量を
調べられる
AST/ALT: ともに肝機能の指標となる
酵素。肝細胞が破壊されると
血液中に流れ出す

(注) *HBs抗原・HBc抗体およびHBs抗体の測定は、高感度のCLEIA/CLIA法で検査することが望ましい。
**HBV-DNA定量検査は、より検出感度の高いリアルタイムPCR法で検査することが望ましい。

提供

ブリストル・マイヤーズ株式会社

〒163-1328 東京都新宿区西新宿6-5-1